



一般社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.1321 2022年8月29日

ARIBの動き

## APG23 第4回会合の概要

APG23 (APT Conference Preparatory Group for WRC-23) は、2023年に開催を予定している世界無線通信会議(WRC-23)に向けて、アジア・太平洋電気通信共同体(APT: Asia-Pacific Telecommunity)の共同提案(APT Common Proposal)を作成することを所掌しています。2023年8月頃の最終会合まで全6回の開催を予定し、今回が第4回の会合(APG23-4)で、議長はKyu-Jin Wee氏(韓国)です。

### 1. 会合の概要

日 程：2022年8月15日(月)～20日(土)

場 所：タイ・バンコク(Web会議併用)

参加者：28ヶ国等から810名が参加(登録者ベース)

(日本から総務省国際周波数政策室 杉本室長を団長に112名が参加、当会から西岡理事、横山次長、加藤担当部長、佐藤(拓)主任研究員の4名が参加)

### 2. 主要結果

本会合では、WRC-23の各議題におけるAPT共同提案の策定に向け、そのベースとなるAPT暫定見解文書を作成しました。下記にIMT関連の主な議題(議題1.1, 1.2, 1.4, 議題10)における審議結果を示します。

#### (1) 議題1.1：4,800-4,990 MHz帯におけるIMT局に対する電力束密度(pfd)制限値の見直し

本議題は、決議第223(WRC-19)に従って、4,800-4,990 MHz帯において、IMT局の干渉から、当該IMT局を運用する国の領土近くの国際空域・水域に航行する航空・海上移動業務の局を保護するための措置を検討し、無線通信規則 脚注5.441BでIMT局に課されている電力束密度(pfd)制限値を見直すものです。

日本からは、ITU-Rで検討中であることを鑑み、引き続きITU-Rにて検討することを支持する旨の寄与文書を入力しており、概ね同様の見解が多かったことから、APTとしてもITU-Rでの検討を支持することが暫定見解となりました。

一方で、国際空域・水域上の航空・海上移動業務の局の保護はそもそも認められていないとする意見と、議題の主旨は航空・海上移動業務の保護を前提とした検討であるとする意見が対立し、今後の継続議論となりました。

(2) 議題 1.2 : 3,300-3,400 MHz、3,600-3,800 MHz、6,425-7,025 MHz、7,025-7,125 MHz  
及び 10.0-10.5 GHz 帯の IMT への特定の検討

本議題は、決議第 245 (WRC-19) に従って、移動業務への追加的な一次分配を含め、3,300-3,400 MHz (第一地域の脚注改訂及び第二地域)、3,600-3,800 MHz (第二地域)、6,425-7,025 MHz (第一地域)、7,025-7,125 MHz (全地域) 及び 10.0-10.5 GHz 帯 (第二地域) の IMT への特定を検討するものです。

日本からは、7,025-7,125 MHz に対して、IMT と既存業務の共用・両立性が実現可能な前提で、既存の一次業務の保護が確保され、追加の制約が課されないことを条件に、当該周波数帯の地上系 IMT への世界的な特定を支持、3,600-3,800 MHz、6,425-7,025 MHz に対して、世界的調和に向けて IMT 特定に向けた検討を指示する寄与文書を入力しました。

議論の結果、7,025-7,125 MHz について日本提案に沿った形で、IMT 特定を支持する方向を暫定見解とし、3,600-3,800 MHz、6,425-7,025 MHz については、IMT 特定は第三地域の既存業務に影響を与えないとする主旨の表現に留まり、今後の継続検討となりました。

(3) 議題 1.4 : 2.7 GHz 未満の IMT 特定周波数帯における HIBS の使用

本議題は、決議第 247 (WRC-19) に従って、世界的又は地域的なレベルで、既に IMT に特定されている 2.7 GHz 未満の周波数帯の移動業務において、IMT 基地局としての高高度プラットフォーム局 (HIBS) の使用を検討するものです。

日本からは、既存の一次業務の保護が確保されることを条件に検討対象の全 IMT 周波数帯 (694-960 MHz, 1.7GHz 帯, 2GHz 帯, 2.5GHz 帯) において HIBS 特定を支持、HIBS の下限高度を 18km、HIBS UE の検討は対象外とする旨の寄与文書を入力しました。

議論の結果、ITU-R で検討中であることを鑑み、ITU-R での検討を支持し、既存業務に影響を及ぼすことなく、2.7GHz 未満において IMT に特定されている周波数が柔軟に HIBS に利用できるよう、世界的、あるいは地域的に調和した規制の枠組みを検討していくことを暫定見解としました。

日本からの HIBS の下限高度を 18km、HIBS UE の検討は対象外とする提案は、今会合では全体合意が得られず、一部の APT 加盟国の見解とされるに留まり、今後の継続検討となりました。

(4) 議題 10 (WRC-27 議題関連) : IMT 周波数の追加特定

WRC-27 に向けた新議題として、韓国、ベトナムから IMT 周波数の追加特定の検討が提案され、ベトナムからは具体的な検討帯域として 7.125-24GHz、92-300 GHz が挙げられました。

中国からは今後前向きに検討すべきとの賛同が示されましたが、サモア等の衛星利用を重視する国からはユースケース、需要について慎重な意見が出され、次回会合での継続検討とされました。

### 3. 次回会合予定

次回 APG23-5 は 2023 年 2 月 20 日（月）～25 日（土）に韓国にて、次々回 APG23-6（最終回）は同年 8 月 14 日（月）～19 日（土）にオーストラリアにて開催予定であることがアナウンスされました。

#### APG23-4 の検討体制

議長	Dr. Kyu-Jin Wee（韓国）
副議長	阿部 宗男氏（日本） Ms. Zhu Keer（中国）
編集委員会議長	Mr. Christopher Hose（オーストラリア）
WP1: 固定、移動、放送	新 博行氏（日本） Dr. Jae Woo Lim（韓国）
WP2: 航空、海上	Mr. Bui Ha Long（ベトナム）
WP3: 科学	Mr. Wahyudi Hasbi（インドネシア）
WP4: 衛星	Ms. Fenhong Cheng（中国） Mr. Mrunmaya Pattanaik（インド）
WP5: 一般課題、総括	Dr. Taghi Shafiee（イラン）

#### 今週の ARIB 内会合（8 月 29 日～9 月 2 日）

- 8 月 29 日（月）：デジタル放送システム開発部会 映像符号化方式作業班 Web 会議併用  
8 月 30 日（火）：デジタル放送システム開発部会 多重化作業班 Web 会議併用  
8 月 30 日（火）：デジタル放送システム開発部会 高度化放送導入方式検討 TG Web 会議  
8 月 31 日（水）：スタジオ設備開発部会 スタジオ音声作業班 Web 会議併用  
9 月 2 日（金）：デジタル放送システム開発部会  
権利保護作業班／アクセス制御方式作業班（合同会合） Web 会議

#### 今週の国際会合（8 月 29 日～9 月 2 日）

- 8 月 29 日（月）：CJK IMT WG 第 65 回会合 Web 会議  
8 月 31 日（水）：FoBTV TC Meeting Web 会議



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
<https://www.arib.or.jp> E-mail [arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)